

岩国基地周辺における令和４年度の航空機騒音の状況

令和５年５月
山口県基地関係県市町連絡協議会

令和４年度の岩国基地周辺の航空機騒音の状況を以下のとおり取りまとめた。

1 概況

【月別W値の推移】

- 令和４年度は、例年と同様に４月～５月のW値が高くなったことに加え、５月末に空母艦載機が岩国を離れて以降も、６月～７月は引き続き高い水準にあった。
８月以降は低くなり、例年の同時期と同程度であったが、艦載機が帰還した１２月以降は再び高くなり、特に２月は、４月～５月の値を上回る水準となった。
 - ・ ４～５月は、例年実施される空母艦載機によるFCLP前後の訓練等の影響により、W値が高くなったが、CQ（空母着艦資格取得訓練）が令和２年度及び令和３年度と同様に岩国基地に帰還せず行われたことから、CQ実施時に帰還した令和元年度より低い水準となっている。
 - ・ ６～７月は、米空軍F-35AやF-22が岩国基地に飛来・滞在し、訓練を実施した影響により、例年同時期に比べて高い水準となった。
 - ・ １２月の艦載機帰還以降は、W値が高く、特に２月は訓練の活発化等の影響により月別最高値を示した地点が最も多かった。

【過去の年間測定値等との比較】

- 空母艦載機移駐後（平成３０年度～令和３年度）との比較
 - 【前年度（令和３年度）との比較】
 - ・ 前年度と比べ、２９地点中２５地点でW値が減少した。
(令和３年度：平成３０年度以降において、２９地点中２０地点で最大値)
 - 【平成３０年度からの比較】
 - ・ 平成３０年度以降、連続して増加したのは１地点（令和３年度までは６地点）で、飛行ルート近辺の基地の北東側、北西側で増加した。
- 空母艦載機移駐開始前（平成２４～２８年度の平均）との比較
 - ・ 約９割の測定地点（２２地点中２０地点）でW値が増加しており、中でも基地北西側、基地近辺の西側、飛行ルート近辺の北東側で増加した。

《米軍機の運用等の状況》

時 期	主な運用、地元への影響等
4 月～5 月	F C L P 前の訓練（岩国基地周辺で実施） →騒音の増大
5 月 6 日～5 月 20 日	F C L P（硫黄島で実施）
5 月 21 日頃～5 月 25 日	C Q（硫黄島を拠点に洋上の空母で実施） ※米側の運用上の理由 ※H30、R元年は、岩国基地を拠点に九州沖の洋上の空母で実施、 R2、3年度はコロナウイルス対策として硫黄島を拠点に実施 →訓練場所への往復に伴う夜間離着陸等による騒音なし →H30、R元年同時期より苦情減少
6 月 1 日～7 月 21 日	F－3 5 A 及び F－2 2 の展開 F－3 5 A：1 8 機（6/1 飛来、6/6 訓練開始） F－2 2：1 2 機（6/15 飛来・訓練開始） （他の在日米軍基地に所在する部隊と連携した訓練の実施）
8 月 17 日～9 月 13 日頃	艦載機が岩国に一時帰還。滞在中に訓練実施 →騒音の増大 →多数の苦情（岩国市 最大 54 件/日（8/30））
12月9日～（現在）	艦載機が岩国に帰還（滞在中） →騒音の増大 →多数の苦情（岩国市 最大 52 件/日（12/21））

《空母の横須賀入港日数》

令和 4 年度の空母の横須賀入港日数は、前年度や過去10年平均より少ない。

令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度	過去 10 年平均
1 7 3 日	2 1 2 日	1 8 7 日	2 0 1 日

2 航空機騒音の指標・測定体制

- 基地周辺地域の騒音の状況について、航空機騒音の総合的な指標であるW値により把握、比較を行った。
- 基地周辺地域においては、現在、国、県、岩国市が設置した騒音測定器（3 4 地点）により、測定を行っている。
- 新設・移設により各時期の測定地点数は異なっており、令和 4 年度の測定値（3 4 地点）と比較可能な地点数は以下のとおり。

比 較 対 象		比較可能 地点数	うち県内
過去の測定値	艦載機移駐後各年度 （平成 30 年度～令和 3 年度）	2 9	2 4
	艦載機移駐開始前 5 年平均 （平成 24～28 年度）	2 2	1 7
	沖合移設前 5 年平均（平成 17～21 年度）	9	8

3 航空機騒音の状況

(1) 月別W値の推移

《月別最高値の地点数（令和4年度）》

（単位：地点）

	4月	5月	6月	7月 ～ 11月	12月	1月	2月	3月
月別最高値の 測定地点数 (全34地点※)	3	0	3	0	2	3	24	1
うち県内 (29地点※)	2	0	2	0	2	2	22	1
主な地点	周防大島町 西屋代 64.8W 岩国市青木 町 64.2W 廿日市市宮 島町西大西 町 57.6W	—	岩国市三角 町 92.0W 和木町瀬田 51.2W 江田島市 沖美町畑 50.8W	—	岩国市由宇 町大畑 63.7W 岩国市由宇 町中央 63.4W	岩国市由宇 町神東 66.3W 周防大島町 西安下庄 58.1W 廿日市市 八坂 56.9W	岩国市尾津 町 77.7W 岩国市旭町 76.0W 岩国市三笠 町 73.6W	周防大島町 伊保田 53.4W

※ 1月と2月に同値で最高値を示した地点が1地点、4月と2月に同値で最高値を示した地点が1地点あり

《測定地点の月別・年間W値の騒音程度（令和4年度）》

（単位：地点）

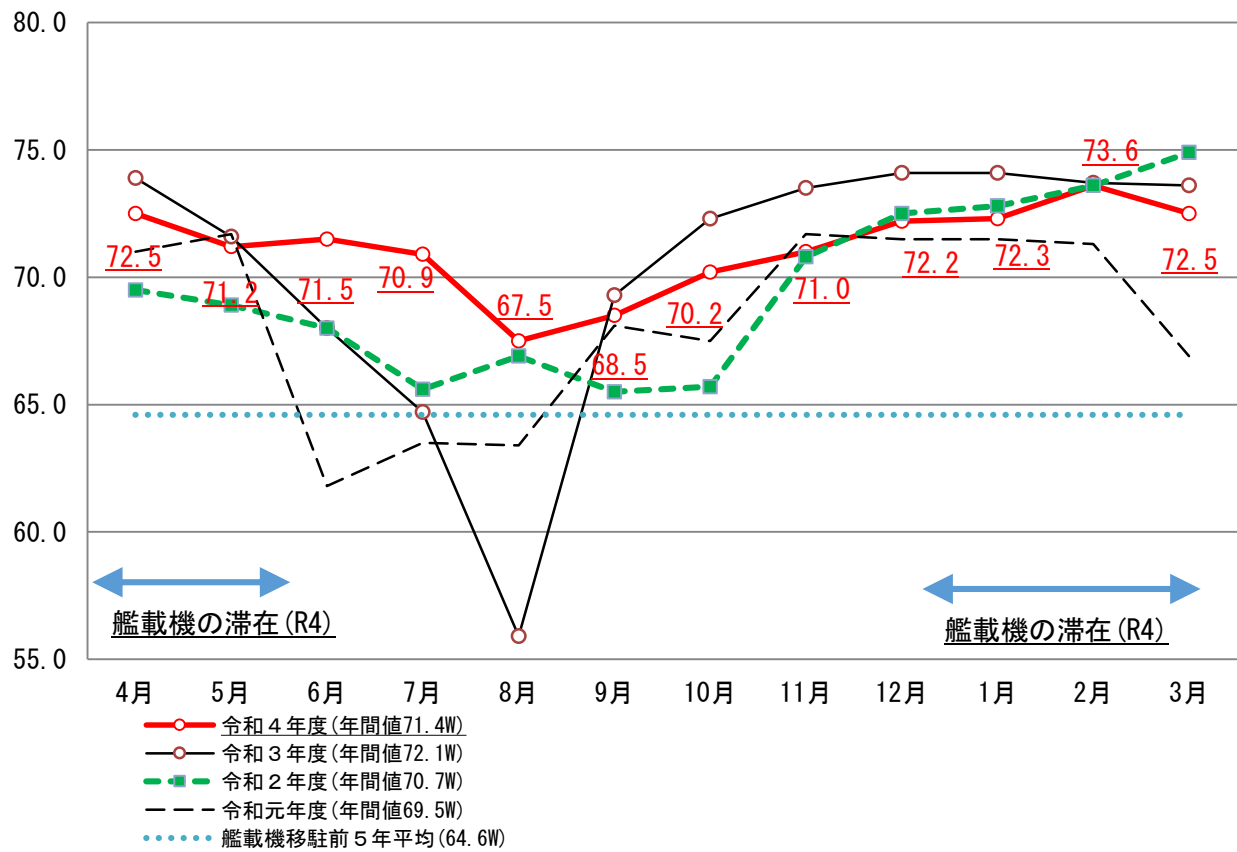
各地点の月別・年間W値について、5W幅の各区分に該当する地点数を集計した。

W値	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
75～	3	1	1	1	1	1	1	1	2	3	5	3	1
70～74.9	4	6	5	4	1	3	6	4	5	5	6	4	6
65～69.9	8	3	7	5	7	6	6	8	7	7	4	6	6
60～64.9	5	9	6	9	5	8	6	5	5	5	8	7	7
～59.9	14	15	15	15	20	16	15	16	15	14	11	14	14
計	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34

※75W以上…航空機騒音防止法による第1種区域（62Lden）に相当
（通年で75W以上を記録している1地点は滑走路に隣接）

《月別W値の推移の例：岩国市三笠町》

単位：W値



(2) 過去の測定値との比較

① 空母艦載機移駐後（平成 30 年度～令和 3 年度）との比較

【前年度（令和 3 年度）との比較】

比較可能な 29 地点中、前年度と比べ、25 地点で W 値が減少した。

【平成 30 年度からの比較】

比較可能な 29 地点中、平成 30 年度以降、連続して増加しているのは 1 地点であった。

また、平成 30 年度以降において、令和 4 年度が最大値となったのは 2 地点であった。

《平成 30 年度以降、増加傾向にある地点》

区分	測定地点名（年間 W 値の平成 30 年度～令和 4 年度の最大増減幅）
増加	基地北東側（飛行ルート近辺） 廿日市市宮島（+5.4）、大竹市阿多田島（+1.7）
	〃 北西側 大竹市サントピア（+8.4）※、和木町瀬田（+4.3）、 岩国市三笠町（+3.7）、川口町（+2.0）

※ 連続して増加している地点。他の 5 箇所は令和 3 年度まで連続増加した地点

② 空母艦載機の移駐開始前 5 年平均（平成 24～28 年度）との比較

比較可能な 22 地点中 20 地点で増加した。

《移駐開始前 5 年平均と比較し増減幅が大きい測定地点》

区分	測定地点名（年間 W 値の増減幅）
増加	基地北西側 岩国市三笠町（+6.8）、岩国市新港町（+6.1）、 岩国市川口町（+4.9）
	〃 西側（基地近辺） 岩国市旭町（+5.2）、岩国市車町（+5.2）、 岩国市尾津町（+4.1）
	〃 北東側（飛行ルート近辺） 廿日市市宮島（+4.1）、大竹市阿多田島（+3.3）
減少	〃 南東側 周防大島町久賀（▲2.9）

<参 考> 沖合移設前 5 年平均（平成 17～21 年度）との比較

《沖合移設前 5 年平均と比較し増減幅が大きい測定地点》

区分	測定地点名（年間 W 値の増減幅）
増加	基地北東側（飛行ルート近辺） 大竹市阿多田島（+4.2）
減少	基地南西側 岩国市由宇町千鳥ヶ丘（▲9.1）
	〃 西側（基地近辺） 岩国市車町（▲6.3）、旭町（▲4.0）、 尾津町（▲4.4）
	〃 北西側 岩国市川口町（▲2.8）

4 航空機騒音への対応

岩国基地周辺の騒音対策については、毎年、国に対し、県政府要望、県市町連絡協議会要望を行っており、引き続き、地元市町と連携し、状況把握に努めるとともに、国や米側において、要望した取組が進められるよう働きかけていく。

【参 考】

《令和４年度 政府要望（令和４年１１月）の内容（抜粋）》

1 米軍岩国基地に係る安心・安全対策の推進

- 飛行運用に係る騒音軽減措置の実施
 - ・ F C L Pの直前に行われる訓練のような集中的な飛行訓練について、岩国基地周辺での実施の緩和や訓練場所の分散など、騒音軽減措置の実施
 - ・ C Q実施時において、滑走路の時間外運用や夜間の離着陸を可能な限り控えるなど、運用時間帯への配慮
 - ・ 航空機の飛行方法や運用時間等に関する「岩国日米協議会」の確認事項の遵守
- 住民の不安解消に向けた措置の実施
 - ・ 住民生活への影響が大きい訓練（外来機によるものを含む）の事前通知
 - ・ 空母艦載機の滞在状況等に関する迅速かつ適切な情報提供
 - ・ F C L Pの予備施設指定からの除外
 - ・ F C L Pの恒常的な訓練施設（滞在可能な施設を含む）の早期整備
- 国による騒音対策の拡充
 - ・ 騒音測定器の増設など、艦載機移駐後の騒音状況の更なる実態把握
 - ・ 住宅防音工事の事務所・店舗への対象拡大や空母艦載機滞在時の状況に対応した対象区域の見直しなど、地域の実情に即した防音対策

《令和４年度 県市町連絡協議会要望（令和４年８月）の内容（抜粋）》

I 騒音対策の強化

- 1 岩国基地における航空機騒音等の軽減
 - 飛行運用に係る騒音軽減措置の実施（集中的な飛行訓練の実施の緩和など）
 - 「岩国日米協議会」における確認事項の遵守（飛行方法や運用時間等に関する確認事項の遵守など）
 - F C L Pの禁止（岩国基地の予備施設指定からの除外など）
 - 航空機の運用や飛行実態等に関する情報提供等（外来機によるものを含む、住民生活への影響が大きい訓練の事前通知など）
- 2 住宅防音工事等、騒音対策の充実
 - 住宅防音工事対象の拡充（第１種区域の見直しにおける艦載機滞在時の騒音状況の反映など）